

平成 29 年度の海部会の活動進捗報告

海部会の目標とテーマ

海部会の 3 ヶ年（平成 28～30 年度）の活動テーマを以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
ごみ・流木の問題	海ごみ、川ごみ問題での課題の共有
豊かな海の生物調査	海の生物資源の減少問題について認識を共有する
海と人の絆再生	懇談会として『三河湾大感謝祭』に参加する
干潟・ヨシ原再生	造成干潟での生物モニタリング継続的に実施する

(3 ヶ年の目標)

- 山部会、川部会との合同 WG の場を年 1 回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

今年度の活動実績

活動内容	日時	場所	議題
第 34 回WG (藤前干潟) 19 名参加	6 月 24 日 (土) 10:00-15:30	・藤前干潟	「藤前干潟エクスカージョン」への参加
第 35 回WG (東幡豆) 19 名参加	8 月 21 日 (月) 10:00-12:30	・東幡豆漁業協同組合 会議室	・鳥と海の環境について ・東幡豆 (トンボロ) 造成干潟の現地視察
第 36 回WG (西尾市) 19 名参加	12 月 13 日 (水) 14:0-16:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 2 会議室	・海の栄養塩に関する最近の問題について ・水質浄化に関する最近の研究事例
第 9 回海の地域部 会 (西尾市) 16 名参加	1 月 24 日 (水) 15:00~17:00	・西尾市役所水道庁舎 会議室	・今年度の活動進捗報告 ・次年度の活動計画

※参加人数は事務局含む

海部会 平成 29 年度の活動成果 まとめ

ごみ・流木の問題

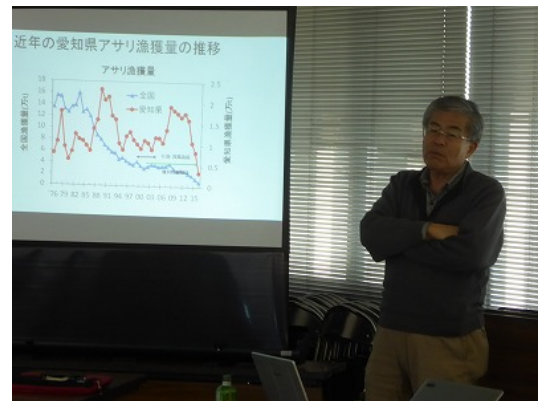
- ・22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」を見学した。



藤前干潟エクスカージョンへの参加

豊かな海の生物調査

- ・鈴木副座長から、海の栄養塩の問題に関する最近の話題として、流入負荷削減と海の水産資源の関係性について話題提供を行っていただいた。
- ・井上委員から八郎潟や油が淵での水質浄化に関するの研究事例と水質浄化対策の技術的課題について話題提供を行っていただいた。
- ・高橋委員から鳥と海の環境の関係について話題提供を行っていただいた。



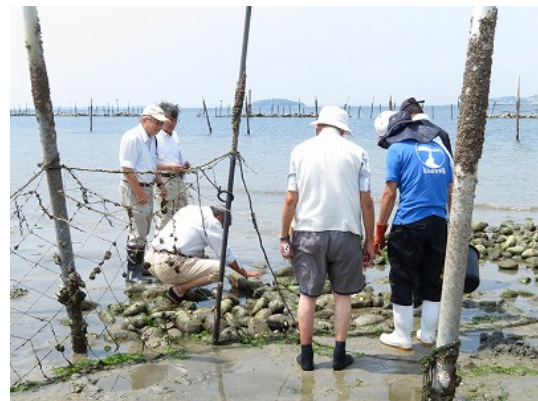
鈴木副座長による海の話提供

海と人の絆再生

- ・愛知県主催の三河湾大感謝に参加予定であったが、天候不良のため中止となった。

干潟・ヨシ原再生

- ・矢作ダム堆積土砂を投入した東幡豆の干潟造成箇所の現地視察を行った。
- ・干潟造成箇所のモニタリング調査結果の中間報告について情報共有を行った。



東幡豆造成干潟の現地視察

テーマ1：ごみ・流木の問題

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○海ごみ、川ごみ問題での課題の共有

《進捗状況》

- ・22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会が主催する「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、多くの一般市民がごみ問題に対する関心が高いことを認識した。

(2) 今年度の活動成果

《海ごみ、川ごみ問題での課題の共有》

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会が主催する「藤前干潟エクスカージョン」に参加した。

今回のエクスカージョンには100名以上の市民が参加しており、愛知県内だけでなく三重県や岐阜県からの参加者もいて、伊勢湾・三河湾の恩恵を受ける地域の方が参加していることに意義のある活動だと感じた。

小学生や幼児など親子で参加されている方も多く、普段の生活の中で出されるごみについて家族で話し合うきっかけづくりになるなど、環境教育の場としての効果が高いと感じた。



資料：藤前干潟エクスカージョンの実施状況

テーマ2：豊かな海の生物調査

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○海の生物資源の減少問題について認識を共有する。

《進捗状況》

- ・干潟造成の効果は一時的なものであり、現状の生物資源量は貧弱な状況であることを認識した。
- ・海の貧影響化による水質問題が海の生物資源に大きく影響をしていることについて情報共有を行い、改善に向けた取り組みについて意見交換を行った。

(2) 今年度の活動成果

海部会メンバーの鈴木副座長から水質の貧栄養化と海の生物資源量に関する最近の傾向に関する話題提供を行って頂き、近年の三河湾における課題について情報共有を行った。

- アサリの漁獲量の減少は、下水処理センターの稼働条件とリンクしており、過剰な窒素やリンの浄化が、アサリの栄養不足および死滅に影響を与えていると考えられている。
- 三河湾の水質の現状として環境基準に対する窒素とリンについてはほぼクリアしており、生物にとっては有害物質のように少なければ少ないほどいいというものではない。
- 透明度が高くきれいな海が必ずしも良いわけではなく、早い段階で対策を打つ必要がある。

海部会メンバーの井上さんから、熊本や福岡で取り組んでいる泥干潟の底質改善試験の事例について話題提供を行って頂き、技術的な改善策について意見交換を行った。

- 泥干潟の改善にはフルボ酸・鉄・シリカ資材を用いられている。
- 泥干潟のアサリが減った場所に置くと、砂と貝殻の底質に戻っており、これまでに熊本、福岡を行い、その効果が確認されているとともに、愛知、島根でも取り組みを始めた。

《鳥と海の環境について》

海部会メンバーの高橋さんから、渡り鳥の習性と海の環境変化に対する近年の傾向について話題提供を行って頂き、海鳥の渡来の減少と海の環境の関係について意見交換を行った。

- 渡り鳥の仲間は、自分たちの餌が補給できる環境が整っていれば、毎年必ず同じ場所にやってくる
- 鳥は生態系の頂点にいるため、餌場となる海の環境が悪くなれば、その場所に渡ってくる鳥も減る。
- 特に愛知県で減少したのは矢作川河口である。埋め立てて高水敷地や砂浜がなくなり、餌が減少したことが影響している。シロチドリやコアジサシの繁殖環境もなくなった。

テーマ 3：海と人の絆再生

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○愛知県主催『三河湾大感謝祭』の場を借りて、懇談会主体の流域圏連携に関するイベントを山部会、川部会と協働で実施する。

《進捗状況》

- ・懇談会を代表して、山部会メンバーである根羽村森林組合が出展する予定であったが、開催当日は天候不良のため、の開催が中止となった。

(2) 今年度の活動成果

《三河湾大感謝祭への参加》

愛知県が主催する三河湾大感謝（10月29日（日）蒲郡市民会館）に懇談会を代表して、山部会メンバーである根羽村森林組合が出展することとなった。

ただし、開催当日は天候不良のため、の開催が中止となった。



資料：三河湾大感謝祭に出展予定であった「動く木のおもちゃ」

テーマ 4：干潟・ヨシ再生

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○造成干潟での生物モニタリング継続的に実施する

《進捗状況》

- ・東幡豆で開催した 8 月 WG 時に、参加部会員で干潟造成箇所を視察した。
- ・モニタリング調査結果では干潟造成箇所周辺でアサリなどの生物生息状況が良好な傾向であることがわかった。
- ・現状の東幡豆干潟の生物資源量は非常に貧弱な状況であることを認識した。

(2) 今年度の活動成果

《干潟造成箇所（東幡豆）のモニタリング結果の報告》

平成 28 年度に実施した干潟造成箇所におけるモニタリング結果報告として、干潟造成箇所の地形状況は出水期前後で大きな変化なく、水質、底質とも汚濁等の傾向はなかった。底生動物は、干潟造成箇所周辺ではアサリ等二枚貝類の生息密度が既存干潟箇所よりも高いことが示された。投入したダム砂は粒径が多様であることから多孔質な空間を形成し、生物の生息場として機能している可能性が高く、ダム砂の投入による干潟造成には効果があると考えられた。

《干潟造成箇所（東幡豆）の現地視察》

既存干潟やダム砂を投入した造成干潟で生き物や底質を観察した。造成干潟では、昨年 4 月に現地視察をした際、大粒のアサリを多数確認したが、今回の視察ではアサリの親貝は全くおらず、1 cm 程度のアサリを確認するのみであった。

ダム砂の投入によって一時的な環境改善効果はみられたが、その他の要因によって現状の生物資源量は貧弱であることを認識した



平成 28 年 4 月



平成 29 年 8 月

資料：海部会員による干潟視察時の採取状況